

氏名	馬丹 (バタン)
本籍	中華人民共和国
学位の種類	博士(学術)
学位の番号	博甲第104号
学位授与の日付	2022年3月18日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	中国の全日制専門職大学院に関する実証研究

論文審査委員	(主査)	桜美林大学教授	田中義郎
	(副査)	桜美林大学教授	小林雅之
		桜美林大学教授	雷海涛
		対外貿易経済大学教授	李尚波

論文審査報告書

論文目次

序章

0.1	研究背景と問題意識	1
0.1.1	研究背景	1
0.1.2	問題意識	1
0.2	研究目的と論文構成	2
0.2.1	研究目的	2
0.2.2	論文構成	2
0.3	研究方法と調査分析の枠組み	3

0.3.1	研究方法	3
0.3.2	調査分析の枠組み	3
第一章 中国における教育制度の発展		
1.1	建国初期（1949年—1966年）	4
1.2	文化大革命時期（1966年—1976年）	4
1.3	改革開放時期（1978年—2000年）	4
1.4	現行の教育制度	5
第二章 中国における大学院の制度		
2.1	大学院の発展背景	8
2.2	専門職大学院の制度的仕組み	8
2.3	学術学位と専門職学位の比較	10
第三章 全日制専門職大学院の学位制度		
3.1	学位制度の歴史的変遷	15
3.2	現行の学位制度	16
3.2.1	三級学位制度	16
3.2.2	学位の三級管理体制	17
3.3	専門職学位の拡大プロセス	18
3.4	全日制専門職学位のカリキュラム	21
第四章 全日制専門職学位の現状		
4.1	募集人数の増加	24
4.2	学位授与数の増加	25
4.3	卒業生人数の増加	27
4.4	学位授与専攻数の増加	27
第五章 専門職大学院に関する実証研究		
5.1	調査対象と調査方法	28
5.2	調査する大学の属性	28
5.3	回答者の属性	30
5.4	修士課程への進学動機	35
5.5	調査内容Ⅰ	38
5.6	調査内容Ⅰの結論	56
5.7	調査内容Ⅱ	58
5.8	調査内容Ⅱの結論	83
5.9	アンケート調査の結論	86

終章 結論と展望	88
アンケート調査の内容 1	91
アンケート調査の内容 2	98
参考文献	102

論文要旨

本研究は、中国における全日制専門職大学院が抱える問題点を研究対象とする。その中で、一つ目は、全日制専門職大学院と研究系大学院は養成目標が違うが、全日制専門職大学院の入学試験制度は研究系大学院のそれと同様であることに注目する。そして、同時期に、同じ問題用紙によって、実施されるということであることから、異なる二つの大学院制度は同じ試験プロセスで、入学者を選抜するとなると、この二つの大学院制度は実質的に何が違うのか？ 二つ目は、2012年より、全日制専門職大学院は従来の専門職大学院とまったく同様に、専攻分野のすべてにおいて、募集を行っているが、中国より先行して専門職大学院を発足させ、設置しているアメリカや日本の事例を概観すると、専門職大学院は法科大学院、教職大学院、ビジネス スクール MBA.MOT などと、会計、公共管理、臨床心理、公衆衛生、知的財産などの代表的な分野に集中しており、これらの分野の専門性を強化しようとしていることに着目する。そこで、中国は多くの専門分野において、全日制専門職大学院を設置しているが、単なる量的な拡大を図っているだけのようにもみられないので、質的な保証がきちんとなされているかどうかは検証すべき課題である。三つ目は、現行の全日制専門職大学院の実態、教育効果について、検証的レベルの研究が少ないことに焦点を当てる。本研究の目的は、全日制専門職大学院の制度上の特徴を明らかにし、そして、その実際の教育過程、教育効果について、実証研究を行うことにより、今後全日制専門職大学院のあり方について検討するということである。主に以下の課題を設定し、以下のプロセスを経て究明する。1.全日制専門職大学院、研究型大学院、専門職大学院の制度的仕組みの違い、それぞれ高等教育機関における役割と位置づけを検討する。i 試験選抜制度、ii 指導体制と養成方式、iii 学費制度、iv 修了要件及び学位制度。2.学生たちはどのような進学意識、進学目的を持って、全日制専門職大学院に進学するか。3.労働市場に焦点を当てて、労働市場は大学院教育の効果をどのように評価しているのかについて検討する。4. 外国の専門職大学院と比較研究を行い、現行の問題点を明らかにし、今後全日制専門職大学院のあり方を検討する。未だよく解明されていない中国の全日制専門職大学院の実証研究を行い、アンケートおよびインタビュー調査を含めた実地調査が重要な意味を持つことを認識し、中国でのフィールド調査を研究の重要な部分として位置付けている。中国における全日制専門職大学院に焦点を当てた研究であり、我が国では、未だ十分

な研究がなされておらず、解明されていないことが多いのが現状である。中国では、1978年より改革開放政策を実施して、中国の高等教育は過去40年間大きく変化を遂げた。1999年から始まった学部レベルの募集拡大とその後の大学院の募集拡大は、国際的にも注目されている現状がある。こうした変化は、中国の経済発展に必要な人材育成を可能にしたが、それまでの中国の高等教育になかった新たな高等教育の仕組みを取り込むこととなった。専門職大学院は、そうした新たな高等教育の仕組みの最たるものの一つである。大学院といえば、研究を中心に据えた修士課程であり、学術修士号を与えたのが従来の修士課程であった。10年程前から、専門職修士課程が顕著になり始めている現状がある。実際に、専門職修士号の量的増加は顕著であるが、こうした専門職大学院の実態は、歴史の浅さもあり、十分に解明されておらず、先行研究もほとんどない。こうした中で、中国における全日制専門職大学の研究を実態調査を通じて解明する試みは、大変意義のあるものであるとともに、我が国はもちろん、国際社会、中国国内においても注目される重要な研究課題である。アンケート調査、インタビュー調査を含む実地調査などを通じて、優れた実証研究をデザインし、研究を遂行し結果を出した。

論文審査要旨

中国では、1978年より改革開放政策を実施して、中国の高等教育は過去40年間大きく変化を遂げた。1999年から始まった学部レベルの募集拡大とその後の大学院の募集拡大は、国際的にも注目されている現状がある。こうした変化は、中国の経済発展に必要な人材育成を可能にしたが、それまでの中国の高等教育になかった新たな高等教育の仕組みを取り込むこととなった。専門職大学院は、そうした新たな高等教育の仕組みの最たるものの一つである。大学院といえば、研究を中心に据えた修士課程であり、学術修士号を与えたのが従来の修士課程であった。10年程前から、専門職修士課程が顕著になり始めている現状がある。実際に、専門職修士号の量的増加は顕著であるが、こうした専門職大学院の実態は、歴史の浅さもあり、十分に解明されておらず、先行研究もほとんどない。こうした中で、中国における全日制専門職大学の研究を実態調査を通じて解明する試みは、大変意義のあるものであるとともに、我が国はもちろん、国際社会、中国国内においても注目される重要な研究課題である。アンケート調査、インタビュー調査を含む実地調査などを通じて、優れた実証研究(制度設計上の特徴はもとより、中でも、全日制専門職大学院の学生の進学動機を探り出すなど)をデザインし、研究を遂行し結果を出したことを高く評価した。

口頭審査要旨

口頭審査を合格とする。理由は、以下の通りである。最終試問において、本論文の中核

を成す新たな、そして、優れた調査研究データが春学期以降に提出され、論文の改訂が表明され、かつ実施された。その結果は、本論文の質、内容を一層充実させ、かつ本研究領域の発展に大きく貢献するものであり、論文の完成度が向上した。よって、完成論文として審査を実施し、審査委員全員一致で合格であると判断した。当該研究領域は未だ未成熟であり、日々発展し続けていることから、今後の研究継続と、新たな調査研究手法の開発により成果の著しい向上が期待されることから、審査委員会としては、本研究が、更なる発展を遂げ、一層の貢献に寄与することを期待した。